

アリウム“丹頂”の開花と長日処理時期

農業研究センター 農産園芸研究所 花き部

研究のねらい

アリウム“丹頂”は、特産花きとして生産が増えており、促成栽培技術の確立が求められている。8月の球根冷蔵と長日処理の組合せにより促成開花が可能なのことがわかっているが、促成開花に効果的な長日処理時期を明らかにする。

研究の成果

4.0～6.0gの球根を用い、8～9週間の湿潤冷蔵後、10月23日に定植し、4～6週間毎に処理期間を変え、16時間(4:00～20:00)の長日処理を行った。

1. 花芽分化は、長日下で早く始まり、自然日長下では遅れる。花芽の発達も、長日下の方が自然日長下より早く進む。
2. 開花は、定植から開花まで全期間長日が最も早く、長日処理の開始時期が遅くなるほど開花は遅くなり、全期間自然日長が最も遅いが、3月5日から長日処理では全期間自然日長と差が無い。
3. また、定植直後から長日処理を行い、途中から自然日長に移すと、長日処理の打ち切りが早いほど開花は遅れるが、1月29日打ち切りでは全期間長日と大差無い。
4. 切花長、切花重、小花数は、全期間長日が最も劣り、長日開始時期が遅くなるほど増え、全期間自然日長が最も優れるが、3月5日からの長日処理では全期間自然日長と差が無い。
5. 定植から長日処理を行い、途中から自然日長に移すと、長日処理の打ち切りが遅いほど減少する。
6. これらのことから、花芽分化は、長日の方が早く始まり、その後の発達も長日の方が自然日長より促進され開花も早くなるが、3月以降の長日処理は開花促進の効果はない。このため、促成栽培では定植から2月上旬～3月上旬までの長日処理が効果的である。

区名	定植	12月4日	1月1日	1月29日	3月5日	開花
A	長日(16時間日長)					
B	長日(16時間日長)					
C	長日(16時間日長)					
D	長日(16時間日長)					
E	長日(16時間日長)					
F	自然日長					
G	自然日長					
H	自然日長					
I	自然日長					

図1 長日処理の時期

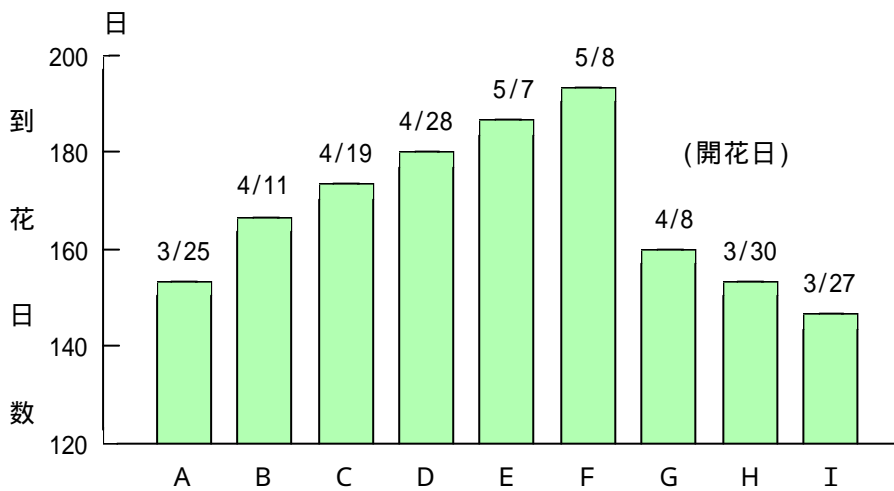


図2 到花日数に及ぼす長日処理時期の影響

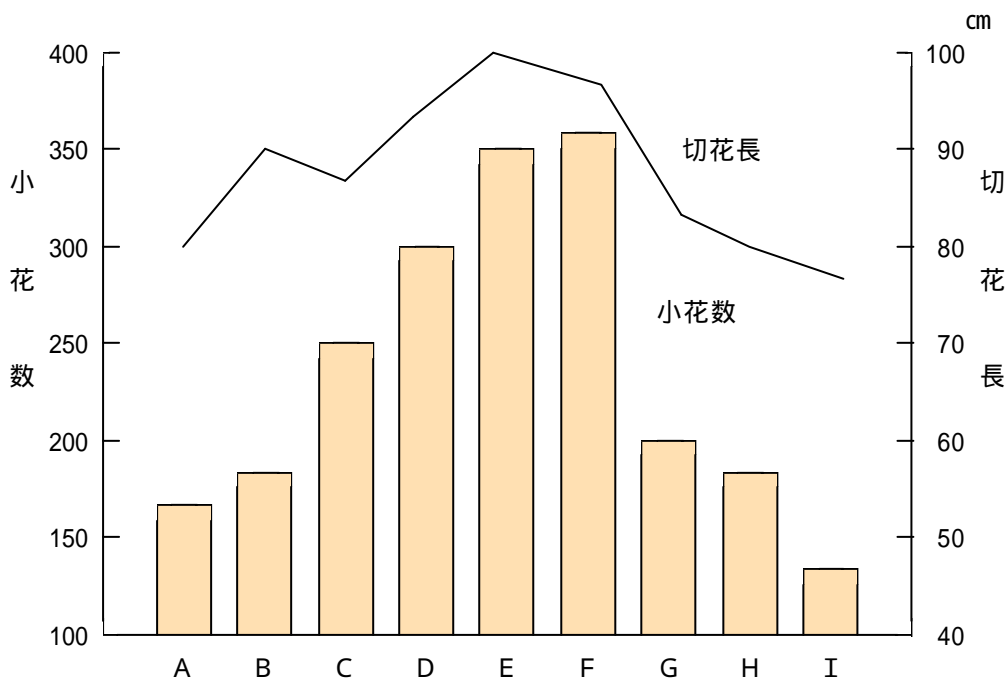


図3 小花数と切花長に及ぼす長日処理時期の影響